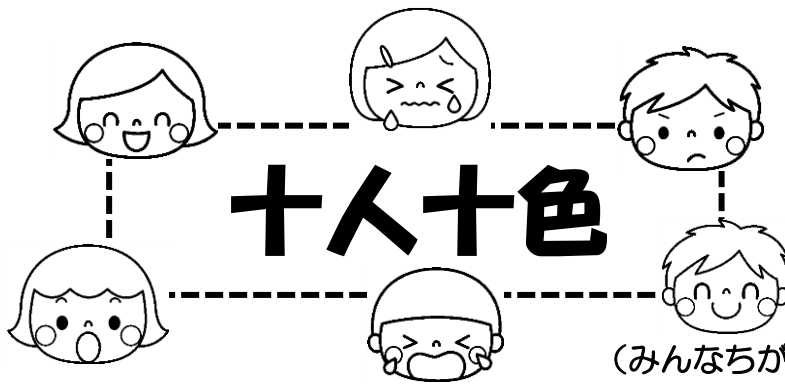


8月



令和元, 7, 31

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO5

(みんなちがってみんないい!)

保育園での虐待を考える

最近、保育士による園児への虐待行為が、連日テレビで放送されています。「しつけ」と称して園児をたたいたり、つねったり……。こんなニュースを見るたび、同じ施設の関係者として情けなく、心の奥底から何とも言えないようないやな感情が湧きあがってきます。ニュースを見てみると、「自分でトイレに行かなかったから・・・」「話を静かに聞かなかったから・・・」などの理由でした。結局、自分の思い通りに子どもが動かないことにイライラするんですよね。子どもを力で抑えようとするんですよね。子ども達の人権はどこに行ったのでしょうか？

私たち保育士は、子どもの健全な心を育てることが、もっとも重要だと思います。子どもの気持ちを汲み取り、寄り添い、出来るだけ思いをかなえてあげて、「自分が大切にされている」という実感を持ってもらう。それがこれからの人生の基礎になるのだと思います。幼児期はそういった「自己肯定感」を育てることが一番大事な時期なのです。(文字を書ける。数字が分る。の前に)

一斉保育、管理保育をやめてみて、「子どもの人権」ということにより敏感になりました。この保育、この教育で本当に良いのだろうか？「子どものため」と言いながら子どもを見ずに、大人が自己満足するための保育・教育になっていないか？日々、自分を振り返りながら毎日进行していきたいと思っています。

子どもの発達を考える。

5歳児の男の子たちが砂場で集まって、遊びが盛り上がっています。

朝から2時間同じ場所で「ああでもない！」「こうでもない！」と言いながら……。面白いなあと思いながら見ていると、時には意見が食い違ったりしながらも、自分たちでどうにか解決の糸口を探しながら、お互いに気持ちをぶつけたり、引いたりし、自分の気持ちと

折り合いをつけながら遊んでいました。5歳児はこれができます。4歳児になると自分の想いが叶わないと、最後は怒って相手に「ばーか！」と言って離れたりします。3歳児になると、まだ1人の世界なので、そこにすらいかないことも多いです。ここで

子どもの発達が見えてきます。3歳児には3歳児の発達、4歳児には4歳児の発達を経験しないと、上には行けないのです。ちょうど階段を登るように。そのところで、大人は的確な対応をしていく。絶対、飛ばしてはいけません。ここで飛ばしてしまうと、大きくなってからやり直しをしなければならない。大きくなった時のやり直しには時間がかかります。気「ばーか！」で止まってしまうこともあります。大人は子どもを見守りながら、丁寧に子どもに関わり、軌道修正をすることが大事になってきます。



*急に暑くなり、いろいろな病気も出てくる時期です。全国的には手足口病も流行しているようです。近くの園では、インフルエンザも出てきているとか・・・夏休みにもなり少し気分的にも緩んでくるこの時期が危ないようです。「早寝、早起き、朝ごはん」で暑いこの時期を乗り切りましょう。体調が悪い時は、無理せずゆっくりと休息がとれると、回復も早いのかと思います。